発表番号　18　　香川大学教職大学院

１　研究主題　　応用行動分析に基づくアプローチによる適切な行動を増やす支援の実践

丸亀市立垂水小学校　教諭　川田　美佳

２　研究の具体と今後の課題

特別な支援を必要とする児童の行動上の問題に対して、教師は何とかしたいという思いをもって日々現場で対応している。しかしながら、その対応は注意や静止、その場から離すなど場当たり的になりがちであり、このような対応がかえって悪循環を引き起こしていることも少なくない。先行研究において、特別な支援を必要とする児童に対する応用行動分析に基づく支援の有効性が報告されている。応用行動分析の視点から支援を考えることで、一人ひとりの行動の背景や原因について理解することができ、個のニーズに応じた適切な支援が可能になる。そこで、本研究では、自閉・情緒特別支援学級に在籍している児童２名を対象に、応用行動分析に基づく支援を実践し、授業中の望ましい行動を増やすことを目的とした。

まず、授業中の行動観察を行い、児童の望ましくない行動について、ABC 分析の枠組み（先行事象：Antecedent－行動：Behavior－結果事象：Consequence）を用いて整理した。ABC 分析は、問題となる行動の前後の状況に焦点を当て、環境との相互作用の側面から分析する方法であり、行動の前後の要因を把握することで、適切な行動を増やすための具体的な支援を見出すことができる。この ABC 分析を用いて標的行動を特定し、その行動が生起する背景やきっかけ、その後の対応について分析することで支援方法を検討した（図 1）。

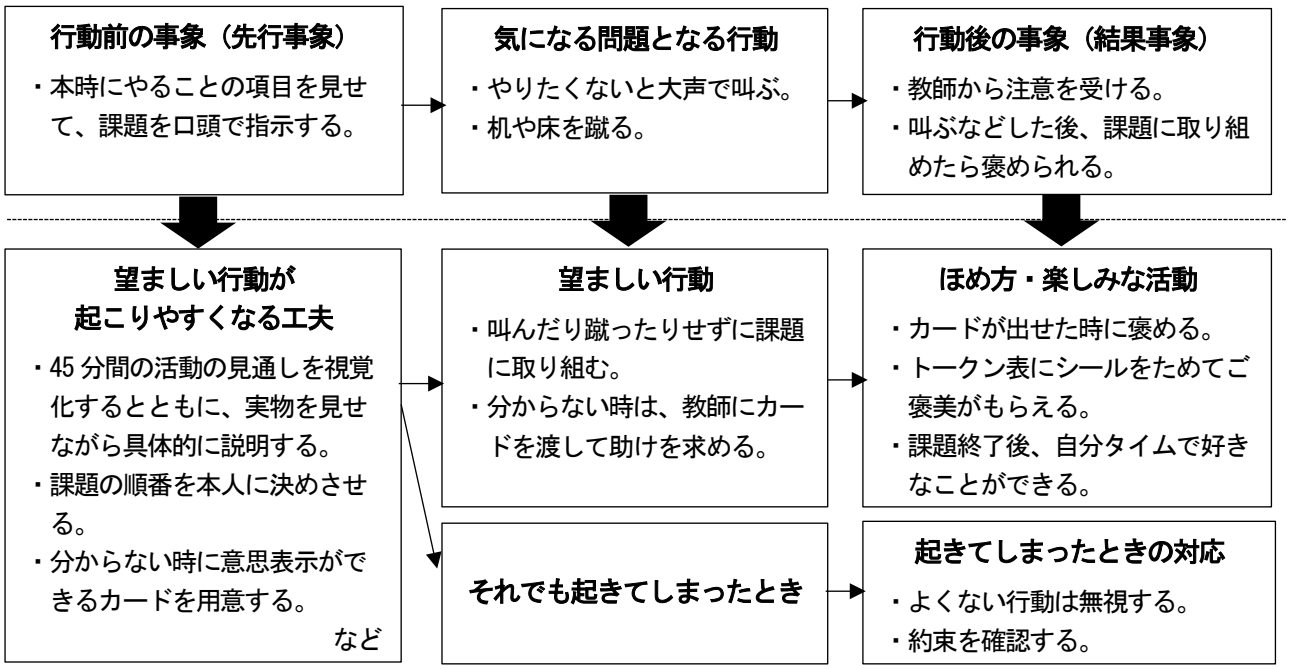

図１　ABC 分析に基づく行動分析シート

支援方法として、先行事象となる教師の働きかけを改善し、問題となっている行動が起きない工夫をすること、標的行動に替わる望ましい行動を設定すること、望ましい行動の強化としてトークンエコノミー法を取り入れることが考えられた。支援介入の評価は、行動観察により、ベースライン期（介入なし）と支援介入期の標的行動の生起頻度を記録し、分析した。その結果、先行条件を操作したことによる効果が見られ、問題となっている行動を減少させたり、学習活動への参加頻度を増やしたりすることができた。

今後は、他の児童にも応用行動分析に基づく支援を実践し、その効果について検証したい。また、本研究の実践をもとに校内で教員研修を行い、学校全体として、個に応じた支援が行き届くようにしたい。